

坐禅の変遷

無学求道作成「自分が変わるために」より

中国禅宗は600年頃始まったが、日本の栄西は1191年因可をうける。道元は1223年に因可をうける。この間ほぼ600年。ネット情報ではあるが日本に伝わった頃には禅宗の坐禅が変わっていたとか書かれていました。

私は多分そうだろうと思います。

お釈迦さんの坐禅からは変わってしまっていた、と言えそうです。

以下のような理由で、さらに変遷しただろうとも考えました。

虚空和尚伝を読んでもとゴク短期間で悟らせるという、師家の指導法が余りにも乱暴だと考えました。この人は日本でいうと江戸末期から昭和34年まで生きた方です。

早く、簡単に、「正しい悟り」（お釈迦さんのような悟り）が得られるように変遷しているのだったら歓迎すべきです。

しかし、残念ながら違うようです。

虚空和尚の言う「参禅」が何時ごろ始まったのかは分かりませんが。

そのような「参禅」が、いつの時代かに日本に入ってきていないという保証はないと思うのです。

お釈迦さんの「正しい悟り」は仏教の根本聖典（増田文雄著）で見ることができます。「成道」というところに菩提樹下の坐禅、「解脱」、「涅槃」と紹介されています。これらは何れも宗教体験です。学者さんは宗教体験を無視するところがあります。「明けの明星」は無視されたようです。訳出もされていません。増谷先生は子供向けの本で「お釈迦さんが見たという『明けの明星』というのには関係がない」とまで書いていました。体験がないと理解できないのは分かりますが、自分が体験してないからといって否定はしないでほしいと言うのが「明けの明星」を見た私の意見です。

そして、この体験にも大きな意味があります。

「正しい悟り」は見性、明けの明星、身心脱落＝解脱、只管打坐、涅槃のような宗教体験を次々と体験することで得られます。

より詳しくは<http://www.geocities.jp/thezazen1/>の「私の十牛図 by 無学求道」をご参照ください。